

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 芦屋市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 活動名 「はるがいっぱい」(みつけたことをおしえあう)	
(2) 対象児童の実態 (1人)	
	第 1 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (日本語) 在籍年数 (4ヶ月)
A 児	<p>日本語の力に関する実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親ともに日系ブラジル人であり、日本語は十分話せないけれど、家庭での会話は日本語を使用している。本児の日本語の力については、日常会話は十分にできるが、書くことは未修である。 ・平仮名についても、家庭で学習しているようであり、授業中の発表も多く見られる。 ・授業に積極的であり、挙手、発言も多い。
(3) 目標	
<p>単元設定のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や通学路で出会った人や身近な自然と積極的にかかわり、そこで見つけたものを、友だちや教師に伝えることを通じて、季節による自然や生活の変化に気付くとともに、地域の人や自然とのかかわりを広げようとする事ができる。 <p>日本語指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教師に積極的に話をしようとする。 ・クラスの仲間とのかかわりを広げるため、コミュニケーション能力を育成する。 <p>◇【教科指導の目標】</p> <p>生活科の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと教師と一緒に校舎内や校庭を回り、自然や人々の暮らしに関心をもって、すすんで春の兆しを探ることができる。 <p>◆【日本語指導の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(私は) ○○を見つけました。」「△△を見つけました。」と表現することができる。 ・「(私は) △△で○○を見つけました。」と続けて表現することができる。 ・「××と思いました。」と自分の思いを表現することができる。 	

2 学習活動

指導者（学級担任）、指導補助者（JSL 担当教員）				
全体の時間数（2 時間）				
段階	学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
体験	① 友だちと一緒に学校を探検したときの事を思い出し、春の兆しを見つける。	在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せることで、思い出をより鮮明にする。 ・対象児童の発見の喜びが残るような写真を事前に撮っておく。 ・発見時に、発見した事物の名称は確認しておく。 	◇「2. がっこうをたんけんしよう」で、歩いたときの写真を見せ、参考にする。 ◆T「なにをみつけましたか？」（写真を提示） ◆S「私はさくらをみつけました。」 ◆T「どこで見つけましたか？」（写真を提示） ◆S「運動場で見つけました。」 ◆S「私は運動場でさくらを見つけました。」
探求	② ワークシートに絵を記入して、発表の準備をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描きながら、「さくら」「みつけた。」「運動場」などの言葉を繰り返し聞かせ、発音させておく。 	◇ワークシートに記入することで、発表の準備とする。
発信	③ 出来上がったカードを使って、発表を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに発表することの楽しさを経験させる。 	見つけたときの気持ちを引き出し、書かせる。 ◆T「さくらを見て、どう思いましたか？」 ◆S「きれいだった。」

3 成果

① 対象児童に対する成果

○教科指導としての成果

本授業は、生活科の一斉授業の指導案とほぼ同じである。しかしJSLカリキュラムの視点に立ち、よりきめの細かい配慮を行っている。そのことにより本児童だけでなく、他の配慮の必要な児童にとっても、一層取組が容易になり、身近な自然や人々の暮らしに関心を持つことができ、さらに発表活動へ意欲を持って取り組むことができた。

○日本語指導の成果

「私は〇〇をみつけた。」「△△で見つけた。」の組み合わせから「私は、〇〇で△△を見つけました。」との表現を身につけることができた。また、そのときの心情を表現することができた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

学級の児童と一緒に遊んだ時の写真を提示したりその時の様子を細かに聞いたりして授業を進めているので、他の児童との接点が増えてきた。

4 課題

○教科指導としての課題

在籍学級担任と綿密に授業を構成することが、大変大事だが、具体的な授業の一つ一つについて相談する時間的な余裕がない現状がある。しかし、より細やかな授業へのアプローチは、本児のみならず、在籍学級の他の児童にとっても大変有用であるので、より積極的に在籍学級担当と連携し、創意工夫のある授業を展開する必要がある。

○日本語指導としての課題

今回の場合、心情を引き出すことが十分にできなかった。そのためにこちらが用意した「きれい。」という言葉のみに終始してしまい、教師が意図的に言わせている部分を強く感じた。

少ない語彙の中から、心情を引き出すためには、本児とともに学校を探検している際に、心情に訴えかけ、その場面で日本語を導入していかなければならない。